



## 巻頭言

## 世界の聖書翻訳事業の現状と将来

日本聖書協会 総主事  
具志堅聖



昨年の12月、私ども日本聖書協会（以下JBS）は『聖書 聖書協会共同訳』を発行した。新共同訳聖書発行以来31年ぶりの新翻訳事業であった。その一年前には新日本聖書刊行会より『新改訳2017』が発行されており、ここ数年日本語訳聖書の動向は大きく変化したと言える。JBSは来年更なるラインナップを企画・製作している。教会の礼拝・伝道・宣教に用いられることを強く願ってやまない。

さて、少し世界に目を向けてみたいと思う。2010年より「Every Tribe Every Nations（以下ETEN）」という組織を中心に世界の聖書翻訳事業において大きなうねりが起きている。ETENはアメリカ聖書協会やウィクリフ聖書翻訳協会などを含む10の大きな聖書翻訳団体をつなぎ合わせ、現場で相互協力を行うためのプラットフォームを形成し、特に小部族や言語グループの言葉に効率的に聖書を翻訳することを推進している。

これまでそれぞれが独自の目標・目的のために活動し、競争し合う

ような時代があった。それがこのETENの働きかけによって、お互いに経験・知識・技術・人材を自由に分かち合い協力する環境ができていく。そして場所と場合によってはプロジェクトを共同で行っている。また、聖書翻訳のためのコンピューターソフトの開発や翻訳作業のためのAIの導入なども試みられ、翻訳作業が加速的に進められているという報告がある。これらはまさに画期的な進歩と言えるであろう。

ETENの統計によると、695の言語に聖書翻訳は完成され、2784の言語に翻訳作業が進められ、未だ1810言語が手付かずのままであると言われている。その現場を見据え、2033年までに世界人口の95%の人々が旧新約聖書を実際に手にし、読むことができるようになることを目標に事業計画が進んでいる。インターネットを通して、あらゆる言語で聖書が読まれ、聖書朗読が聞かれる時は近い将来くるだろう。

けれども、聖書翻訳事業はあらゆる言語に翻訳されたら終わりとなるわけではない。そこから次は、翻訳

された聖書が読まれ、朗読が聞かれるようになる。そして教会や宣教団の働きによって人々が聖書を学ぶようになり変えられる。神の民となり、神の国の働きに加わるようになる。それをBible Engagementと呼んでいるが、世界の聖書協会を含むさまざまな聖書翻訳関連団体で思案・研究・実践されている。今後この分野における相互協力も深まっていくだろう。日本でも多種多様な相互協力が起きることを期待している。

このような時に聖書協会共同訳は発行された。まだすべての世代で電子書籍より紙の本を好む方が多いと言われる。その数字は今後変化するだろうが、決して紙の本はなくなることはない。当然聖書も同じであろう。その時流がどのように変化しようとも、神の国の働きは続く。そうである限り聖書協会の使命も続く。そのようなビジョンと使命感をもっている団体として今後も覚えていただければ幸いである。主に栄光！



## リバイバルミッション

<http://www.j-revival.com>

〒441-1307 愛知県新城市富沢407-1  
フリーダイヤル：0120-291-372 TEL：0536-23-6712  
FAX：0536-23-6220 office@j-revival.com

滝元明師、田中政男師が日本のリバイバルへの熱い思いを胸に抱き「日本リバイバルクルセード」を旗揚げし、2020年で50年になります。旗揚げした当初から、貫いてきた事は「伝道」と「教会に仕える」という事でした。「伝道」は教会の最重要使命。主からの「命令」・「責任」です。私たちがこの地上に生かされている最大の理由は、福音を伝えるためです。伝道は「人間の命」がかかっている「緊急案件」です。2020年も「リバイバルミッション2020」という名称でメッセージャー、音楽ゲスト、そして、音響スタッフをパッケージにして、全国の教会に派遣し「伝道集会」を開催したいと願っています。チームに対する謝礼、交通費、宿泊費、宣伝用チラシ（500枚までは無料）、その他一切の経費をリバイバルミッション側で負担致します。ただし集会時に席上献金をさせて頂き、その献金をリバイバルミッションにささげて頂く形をお願いしております。是非多くの方々が救われますように。また経済的にも支えられますようにお祈り下さい。

### 2020年リバイバルミッション日程

- ①沖縄地区 1月24日(金)～2月2日(日)
- ②九州地区 2月21日(金)～3月1日(日)
- ③四国地区 3月10日(火)～15日(日)
- ④中国地区 3月31日(火)～4月5日(日)
- ⑤甲信越地区 5月15日(金)～24日(日)
- ⑥中部地区 6月12日(金)～21日(日)
- ⑦北陸地区 7月3日(金)～12日(日)
- ⑧北海道地区 9月11日(金)～20日(日)
- ⑨東北地区 10月2日(金)～11日(日)
- ⑩関東・関西地区 11月3日(火)～23日(月)



▲集会の様子



▶チラシ見本

## OneHope Japan

<https://onehopejapan.net/>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-9 AS ONE 東池袋ビル3F  
TEL：090-9312-9620 FAX：050-3730-8289  
onehopejapan@gmail.com

### TOGETHER WITH LOCAL CHURCHES.

ワンホープは、地域教会と共に。



←OneHopeの  
定例ミーティング。  
左から石倉、宇賀、  
神保スタッフです。

OneHopeは次世代宣教のためのマンガトラクトやムービー(LUMO)、アプリ(こども聖書アプリ)などを製作し、個人や教会に無料で提供している宣教団体です。ビジュアルツールを活用することで、今の子どもや青年たちにとってより受け取りやすい形で福音を届けることを目指しています。

何箱でも無料で提供していて、教会のイベント、キャンプ、幼稚園などで用いられています。また、活動は

国内外の献金によって支えられています。

2019年より新しく神保スタッフが加わり、3人体制でトラクト提供やセミナー活動をしています。

年内に560件以上、合計約50万冊のご注文をいただき、日本全国の教会に提供することができました。

2020年以降もいろんな機会を活用し、教会や団体とよい協力関係を続け、次世代宣教に取り組んでいきますようにお祈り下さい。



## 伝道団体連絡協議会2019セミナー報告 「東京オリンピックに向けたスポーツ伝道の取り組み」

日時●2019年11月26日(火) 午後2時～4時  
〈報告〉新生宣教団 田倉誠一(伝団協書記)

OCC(お茶の水クリスチャンセンター)4階 東京プレジャーセンターチャペルにて、スポーツ伝道に用いられている4名を講師に迎え、東京オリンピックに向けたスポーツ伝道のセミナーを持ちました。

鈴木英治師(立川若葉町キリスト教会牧師)より、聖書とスポーツの関係について学びました。ジョシユア佐佐木師(WSMJ副委員長、Worship Japan学長)より、WSMJ(ワールド・スポーツ・ミッション・ジャパン)の働きを紹介していただきました。米内宏明師(JISP代表、国分寺バプテスト教会牧師)から、前半はJISP(ジャパニーズ・スポーツ・インターナショナル・パートナーシップ)の働きの紹介、後半では、



鈴木英治師



ジョシユア佐佐木師



米内宏明師



岡澤元氏

ラグビーワールドカップでの伝道の取り組みをまとめられた岡澤元氏(JISP事務局)により、今年の活動の報告をしていただきました。

教会から一番遠いところにいるスポーツをされている方々が、今年、ラグビーを通して多くの場所でクリスチャン・アスリートたちと出会い、福音に出会ったそうです。それは教会にとどまらず、学校、自治会、クラブに広まってきました。スポーツや部活動を敵とせず、いかにこのオリンピックの機会を用いていくか、多くのチャレンジと知恵を受け取ることができました。

鈴木英治師は、日本では唯一と言われている、スポーツと聖書の論文を発表さ

れており、それをわかりやすく書いた本を出されています。いままでも、クリスチャン少年野球大会などを実施されてきており、そのスポーツ伝道の土台を聖書から学ぶことができる本です。

「聖書におけるスポーツと福音」スポーツ・アウトリーチ・ジャパン(発行：株式会社 ヨベル)

ジョシユア佐佐木師のWSMJでは、来年7月東京オリンピックを前にして、日本のいろいろなクリスチャンアーティストを招いてのフェスティバルを計画しています。(淀橋教会ほか)

<https://www.facebook.com/World-Sports-Mission-Japan-7101201814973/>

米内宏明師のJISPでは、多くの来日する宣教団体やクリスチャンアスリートとのマッチングを来年2月に始めることを計画しています。

<https://www.facebook.com/jisnetwork/>

来年の東京オリンピック(7/24～8/9)、東京パラリンピック(8/25～9/6)まで、それぞれあと7ヶ月、8ヶ月です。よき収穫のときとなるよう、それぞれに情報を共有し、助けあっているお祈りください。

姫井師のまとめられているワールドスポーツミッションジャパンでも、情報を受け付けておりますので、ご連絡いただければ幸いです。(総動員伝道まで)





# 近況& 祈りの課題

vol.92  
2019年12月

## 東京プレーヤーセンター

- ①クリスチャンがもつと聖霊様に満たされて元気になる様に。
- ②日本中の牧師さんがTPCのメッセージの奉仕に用いられる様に。
- ③女性メッセージャーが100名になる様に。
- ④礼拝、祈りに多くの方が参加できる様に。
- ⑤新しいチャペルが日本のリバイバルのために用いられる様に。

## PBA 太平洋放送協会

●神様の愛と希望をわかりやすく伝える福音番組「ラジオ「世の光とテレビ「ライフ・ライン」を制作し、提供することを通して、福音主義に立つすべての教会に伝え、主に栄光を帰すことが出来ますように。

●神様の知恵をいただきながら、良き番組を制作することが出来ますように。

●全国31の放送伝道協力が各地域で放送を流しています。番組を通してでなければ福音に触れることができない方々に、届けることができますように。

## お茶ノ水クリスチャン・センター

●2020年は特にOCC館内にある団体と協力し、関係を強め一致して宣教の働きに仕えていきますように。

●約40年間継続してきましたOCCフライデーナイトが2019年7月から隔週で開催されており、2020年はフライデーナイトに献身的に関わってくださる方を募っていきたいと思います。特に神様の助けと知恵があたえられますように。

## 高校生聖書伝道協会 (hi-b.a.)

日本にいるすべての高校

生に福音を届けることをウイジョンとして活動しています。クリスチャン高校生による高校生伝道が各地で進むようにお祈りください。また、団体としても必要とされるころに出ていくことができるように、そして、働き人をはじめとするすべての必要が満たされて、整えられていくようにもお祈りください。

## 新生宣教団

- ①世界の迫害下にいる兄弟姉妹の安全と信仰生活が守られるように。特に中国の教会の方々のために。
- ②聖書を手に入れられない国や地域の人々へ1冊でも多く届けることができるように。

●約40年間継続してきましたOCCフライデーナイトが2019年7月から隔週で開催されており、2020年はフライデーナイトに献身的に関わってくださる方を募っていきたいと思います。特に神様の助けと知恵があたえられますように。

## 総職員伝道

\*2020年度の活動のため、目下企画中。Walk with Jesusは何とか予定が組めそうですが、Seed Sowing Ministryはうかがうべき地域がまだ定まりません。必要としている地方の教会にうかがいたいと思っています。

\*オリンピック宣教 World Sports Mission Japan を設立しました。協力団体・教会・人財を求めています。

## 日本CGNTV

- (1)新しく局長に就任したパク・ドウジンを中心に、2020年は「日本から世界へ」というテーマで、新しい番組制作、コンテンツ開発を通し、視聴者の方々が霊的に養われ、日本の教会の成長の助けとなる働きを継続できるように。
- (2)悪化した日韓関係において、このような時にこそ日本CGNTVが両国の架け橋の役割を果たし、キリストの愛のうちに和解と一致の働きが進められていくように。

## 福音ネット伝道協会の

- (1)インターネット配信伝道番組「この指とまれ」が、世界の人々に聴かれるように。
- (2)5大コンテンツの充実...
- (3)「この指ドラマ館」
- (4)新約聖書ドラマ「イエスに出会った人々」
- (5)旧約聖書ドラマ「神を見た人々」
- (6)日本語版「解き放たれた人生」
- (7)「聖書・名作朗読 Bblica You version LB 新

旧約  
(3)同労者(出演者)現在10人(男性4人、女性6人)感謝。更に参加を。  
(4)伝団協の他の伝道団体と、宣教協力ができるように。

## YWAM日本

YWAM JAPANでは日本各地に伝道拠点を拡大しつつあります。これ迄の東京、大阪、長

野、鹿児島、沖縄に加え、2019年は仙台と神戸が加わり、2020年には北海道、京都、大分に拠点を拡大する計画です。それぞれの働きはまだ小さなものですが、少しでも地域教会の助けとなり、救霊のために用いられますように。この日本を愛し、日本に仕える心をもった宣教師が世界中から送られてきますように。

## 伝道団体連絡協議会から

### 伝団協 会長 姫井雅夫

主の再臨が近いのかと思わせられるような、自然界の猛威、人種差別がますます格差が広がっている貧富の差。

伝団協に属している諸団体から送られて来る印刷物を見ると、一般の教会では知れない情報が届きます。幅広い年齢層、世界を覆う宣教の実情、とても貴重な情報が、伝団協から発信されています。武器を使って「平和」を作り出そうとする各国の動き。でもここからは本当の「平和」は生まれにくい。福音宣教こそ

が、主がもたらす本当の平和を作りだす。各方面で専門的な知識と活動をしている伝団協の存在は大きい。

世界の各分野で、人材不足や企業の倒産が起きている。伝団協でも同様の課題を抱える。次世代を担ってくださる器がなかなか排出されない。さらに人材を整えて行く財政にも課題はある。クリスチャンの皆さん、この実情を知り、各団体のためにお祈りいただきたいと願う。